

総合計画策定に向けた市民意識調査結果

市民の意識改革 8割の人が必要感じる

この意識調査は、平成十八年度から二十七年(2006年度から2015年度)を計画年次とする市の総合計画を策定するための基礎資料を得ることを目的に、本年四月に実施しました。調査では恵那市に住んでいる二十歳以上の男女二千五百人を無作為に抽出し、郵送によって配布、回収しました。回収数は、千六百八十八人で回答率は六七・五割となりました。ここでは、調査結果の一部を紹介いたします。調査の詳しい内容は、市役所の情報公開コーナー、振興事務所、図書館、ホームページでご覧いただくことができます。

回答者の内容

【性別】

男女構成は、男性が四四・三割、女性が五五・一割となっています。

(無回答〇・六割)

【年齢】

五十歳代が二二・三割と最も多く、以下、六十歳代が一九・三割、七十歳以上が一八・一割、四十歳代が一五・五割、三十歳代が一二・二割、二十歳代が一・二割となっています。

【住んでいる地区】

大井町一八・二割と一番多く、次いで長島町が一五・六割となっています。

【居住年数と住宅の種類】

二十年以上居住している方が八一・五割と大きな比率を占めており、十年以上を含めると八九・七割とほぼ九割となります。また住宅の種類では、一戸建ての持ち家の方が約九

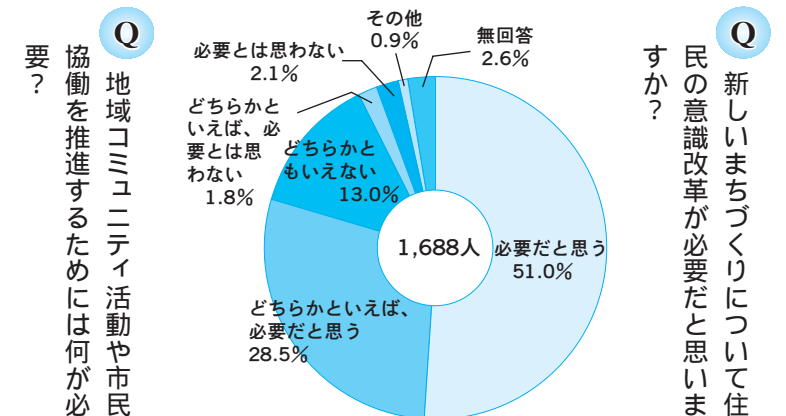
割を占め、その内、同居者がある方が五七・二割、同居者が無く一人住まいの方が三四・三割となっています。

市民参加のまちづくり

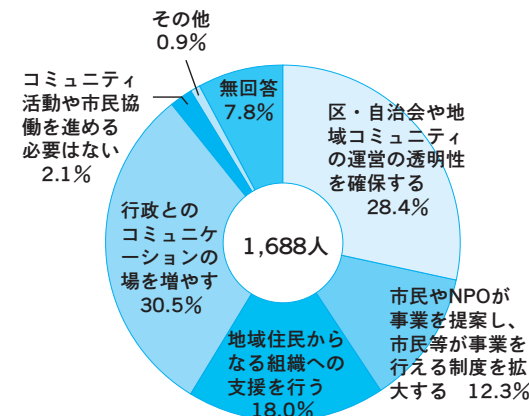
市民の8割が意識改革の必要性を

住民の行政参画や協働のまちづくりの在り方など、住民の意識改革の必要性については、「必要だと思つた」五・〇割、「どちらかといえば必要だと思つた」二八・五割で、合わせて約八割の皆さんが必要を感じています。

市民協働に必要なものとして、行政とのコミュニケーションの場を増やすことや区・自治会などの運営の透明性を確保することが必要だと考えられています。



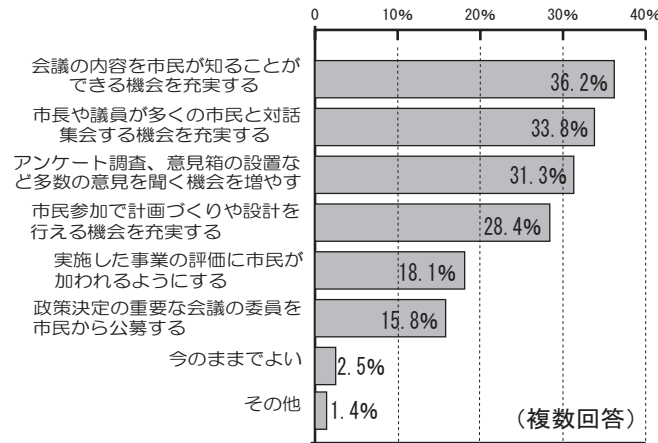
新しいまちづくりについて市民の意識改革が必要だと思いませんか？



地域コミュニティ活動や市民協働を推進するためには何が必要か？

Q 市民の意見を市政に反映するためにには何が重要だと思いますか？

市民の意見を市政に反映させるためには、「会議の内容を市民が知ることが出来る機会を充実すること」や「市長や議員が多くの市民と対話集会すること」、「アンケート調査、意見箱の設置など多数の意見を聞く機会を増やすこと」など、さまざま方法が求められています。



市政に対する現状評価(満足度・不満足度・重要度)

水道・ごみ・保健に高い満足度

全体で満足度の高い施策としては、「水道・簡易水道の整備」、「ごみ収集と処理サービス」、「健康診断・相談、健康予防」、「買い物の便利さ」などがあげられています。ただし居住地別にみると、笠置町、中野方町では、「水道・簡易水道の整備」の満足度が低く、飯地町、串原、上矢作町、中野方町では「買い物の便利さ」の満足度が低くなっています。

満足度の高い施策 トップ10	満足度
水道・簡易水道の整備	46.0%
ごみ収集と処理サービス	44.4%
健康診断・相談、保健予防	41.6%
買い物の便利さ	39.9%
消防体制(署の配置など)	33.9%
広報による市情報の提供と公開	32.6%
し尿収集と処理サービス	32.5%
下水道・農業集落排水・合併浄化槽の整備	31.2%
ごみ減量化と資源リサイクル化	31.0%
幹線道路(国道・県道など)の整備	29.4%

商店街のにぎわい、働く場、交通に不満

全体で不満足度の高い施策としては、「商店街のにぎわい」、「魅力ある働く場の確保」、「JR・民間バスの便利さ」、「地震・災害に対する安心感」などがあげられています。ただし年齢別にみると、二十歳代から三十歳代では、ワースト10以外に「公園・緑地などの憩いの場」、「緊急医療体制」、「スポーツ施設の数と設備」などの不満足が高くなっています。

不満足度の高い施策 ワースト10	不満足度
商店街のにぎわい	54.7%
魅力ある働く場の確保	52.8%
JR・民間バスの便利さ	46.6%
地震・災害に対する安心感	43.6%
段差や道幅などの歩道の安全性	43.4%
身近な市道・生活道路の整備、維持管理	40.3%
市政への市民の意見の反映	39.7%
防犯・治安などの安心感	34.9%
工業の振興対策	34.4%
観光施設と誘客PR	34.1%

医療・ごみ・保健など生活関連が重要

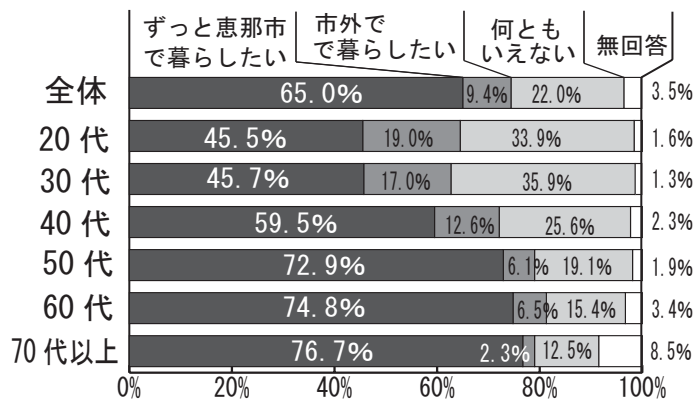
重要度の高い施策としては、「緊急医療体制」、「ごみ収集と処理サービス」、「医療機関」、「健康診断・相談、健康予防」などが重要な項目と考えられています。居住地別では、笠置町、飯地町では、トップ10以外に「幹線道路の整備」などの重要度が高くなっています。

重要度の高い施策 トップ10	重要度
緊急医療体制(夜間・休日・救急)	68.6%
ごみ収集と処理サービス	64.9%
医療機関(恵那・上矢作病院)	64.8%
健康診断・相談、保健予防	63.3%
防犯・治安などの安心感	60.9%
生活支援・介護など高齢者福祉	60.9%
ごみ減量化と資源リサイクル化	60.2%
地震・災害に対する安心感	58.9%
魅力ある働く場の確保	58.5%
水道・簡易水道の整備	58.3%

今後の居住の意向

「ずっと恵那市で暮らしたい」が65%

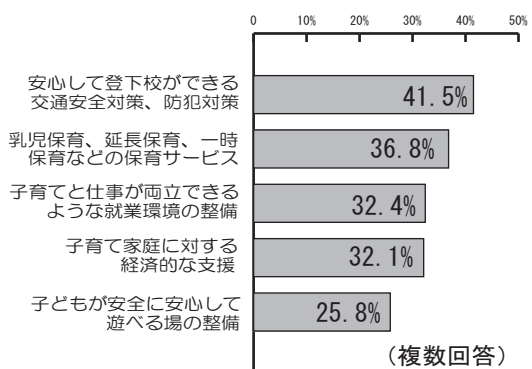
今後住みたいところでは、「ずっと恵那市で暮らしたい」は、全体で六五・〇割となっており、年齢が高くなるほど、その割合は大きく、四十代以上では、五割を超えています。三十代以下の若者では四五割程度となっています。



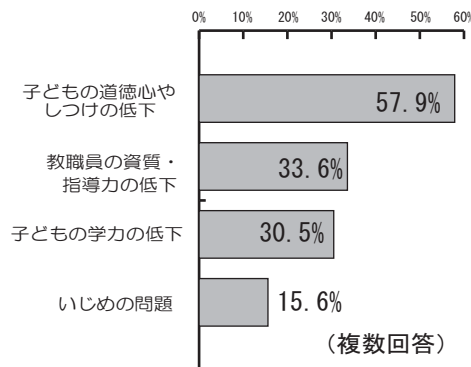
個別の課題や取り組み

恵那市で暮らしたい理由は、家・土地があるから（八四・六割）、地域・人に愛着があるから（四八・一割）、居住環境が良いから（二八・六割）が多く、市外で暮らしたい理由は、日常生活が不便だから（四七・八割）、通勤・通学に不便だから（三三・一割）、居住環境が悪いから（二七・七割）、やりたい仕事がないから（二二・九割）となっています。

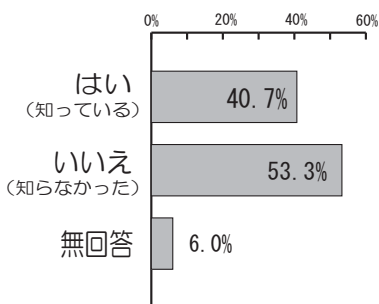
Q 安心して子どもを生育できる環境を整えるには何が必要？



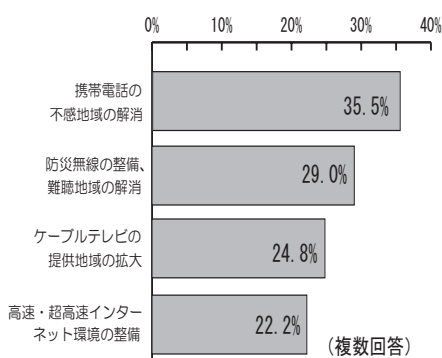
Q 小中学校教育に対して心配なことは？



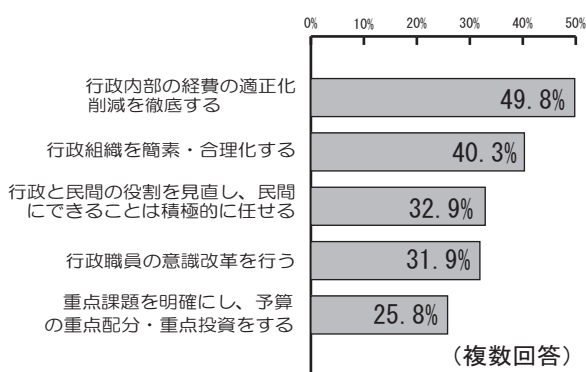
Q 合併後、乳幼児医療費の助成が小学校卒業まで拡大されたことを知っていましたか？



Q 情報通信基盤の整備に関して早期に実現して欲しいものは？



Q 効率的な財政運営のために重点的に取り組むべきことは？



総合計画の素案づくり

市では、平成十八年度から十年間の市の方針を定める総合計画を本年度中に策定します。

市民参画の計画づくりを目指し、四月から市民公募委員と市職員によるワーキングチームを編成して総合計画の素案作りをしています。ワーキングチームは、市民公募委員三十七人、市職員四十人の計七十七人で構成し、健康・福祉、生活環境、都市交流基盤、産業振興、教育・文化・住民参加の四グループに分け、それぞれの柱に沿った計画の

ワーキングチーム活動中

素案を策定していきます。

現在、グループごとに四月に実施した市民意識調査の結果なども参考にしながら、市の現況と課題の洗い出し作業を行っています。

今後は、現況と課題を浮き彫りにした上で、市の取り組みべき課題と解決策をまとめていきます。

総合計画を本年度中に策定するため、十月までに素案を作成して、新市のまちづくりの指針となる計画づくりを進めます。

【ワーキングチームの構成(敬称略)】

- 委員長＝三宅明(串原) 副委員長＝高柳淑子(長島町)【健康・福祉部会】
- 長嶋まち子(大井町) 安田喜子(健康保健課)【生活環境・都市交流部会】
- 曾我龍一(武並町) 可知洋好(建築住宅課)【産業振興部会】
- 柘植建蔵(飯地町) 藤井輝彦(岩村振興事務所)【教育・文化・住民参加部会】
- 樋田芳久(中野方町) 成瀬初美(まちづくり文化課)
- ＝リーダー、＝副リーダー

問い合わせ 政策調整課 26

2111(内線331)

http://www.city.ena.gifu.jp/

インタビュー

総合計画ワーキングチーム 委員長 三宅明さん



ワーキングチームに参加したのは、私が合併協議会に委員という立場でかかわってきて、合併したからそれでよしというのではなく、合併後のことについても、できることがあれば協力しようという思いからです。

今回の総合計画は、アンケート調査をはじめ、地域計画などで地域から意見を出したり、市民からチームに参加したり、意見箱の設置など、いろいろな方面から市民の意見が反映できる工夫がされており、とてもいいことだと思えます。計画策定は「過程」が大切で、人から押し付けられたものではなく、市民自らがかわることが重要なこと。自分がかかわったもの

であれば、納得もでき、計画実現に向けて自ら取り組むこともできると思っています。

アンケートの回答率が六十七割と高かったことは、皆さんが新市のことを真剣に考えていると感じました。恵那市の地域や人に愛着があり、住みたい人が多くある反面、勤めたくても適当な職場がないという現実が数字にも見られます。ワーキング会議ではこうした市民の皆さんの思いをくみ取り、課題解決への方策を示すことができれば、と思います。

合併協議会の新市まちづくり計画でも「人・地域・自然が調和した交流都市」を掲げていますが、私も交流人口の増ができれば、できないかが、市の将来を大きく左右すると思います。

今後、ワーキングチームの皆さんの熱意と英知を結集して、地方の時代に相応した市民のための総合計画づくりを目指したいと思います。

今回ワーキングチームの委員長に選ばれましたが、合併してよかったですと言われるように微力ながら取り組んでいきたいと思えます。



ワーキング会議でグループ別に課題を発表